

見本

No

修士学位論文

原本の写し 3部

論文題目

○○○○○○○○○○○○○○

○○○○○○○○○○

提出者

山形大学大学院理工学研究科

(専攻名)

専攻

米沢 太郎

提出年月日

平成○○年 ○ 月○○日

山形大学大学院理工学研究科



※受付印つき

指 導 教 員	(主指導教員名) 教授
審 査 委 員	主 査 (主査氏名) 副 査 (副査氏名) 副 査 (副査氏名)
審 査 年 月 日	平 成 ○○ 年 ○ 月 ○ 日

提 出 者 略 歴	
氏 名	よねざわ たろう 米沢 太郎 平成○○年 ○月 ○日生
本 籍	○ ○ 県
履 歴 事 項	
平成○年 4 月	山形大学工学部○○○学科 入学
平成○年 3 月	山形大学工学部○○○学科 卒業
平成○年 4 月	山形大学大学院理工学研究科博士前期課程 ○○○○専攻 入学
平成○年 ○月	山形大学大学院理工学研究科博士前期課程 ○○○○専攻 修了見込
平成 年 月	以下余白
平成 年 月	

※履歴事項は大学入学以降年次に従って記入すること。

目次

第一章 序論

1-1 *****	 1
1-2 *****	 2
1-3 *****	 3
1-4 *****	 4
.	
.	
.	

第二章 実験

2-1 *****	 15
2-1-1 *****	 18
2-1-2 *****	 20
.	
.	
.	
.	

● 学位論文は
表紙(表面、裏面)、目次
をコピーして下さい。

学会

・表紙・目次・内容（ポスター等も）

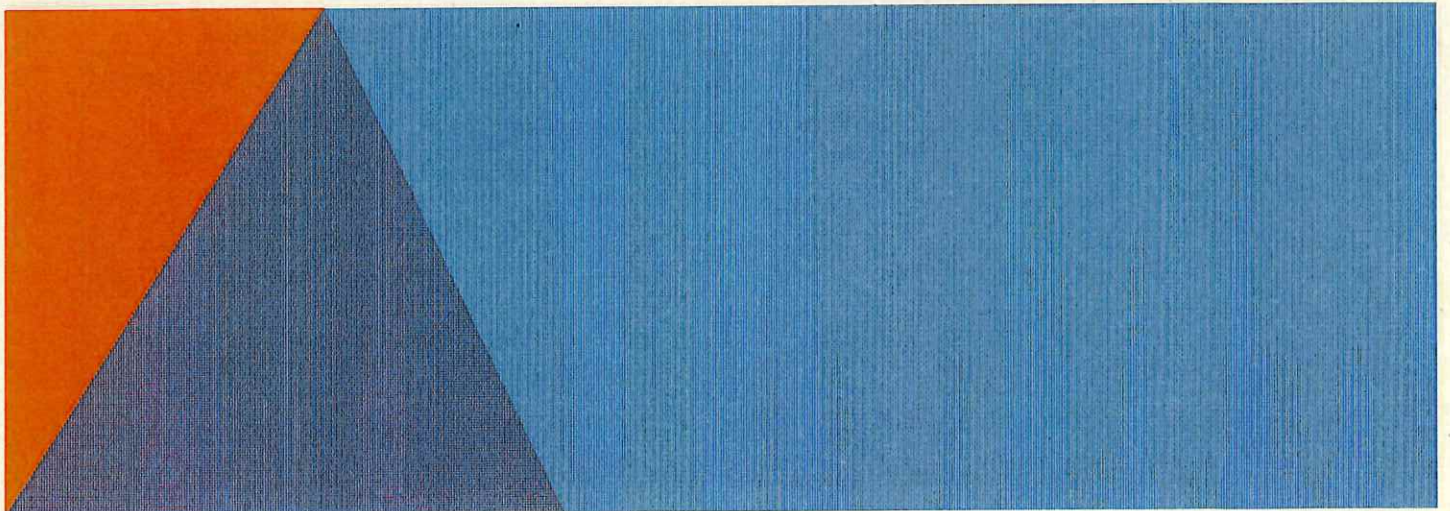
→ 該当ページ、名前をマーカーでチェックする。

（雑誌も同様）

日本〇〇学会 第△△年会 プログラム集

会期：〇〇年〇月〇日～〇〇日

開催地：□□大学（△△キャンパス）



令和元年度 業績優秀者返還免除申請書

(様式1-1表)

令和 年 月 日

独立行政法人

日本学生支援機構理事長殿

本申請書記載事項に相違ありません。

免除認定を受けた場合、認定後において日本学生支援機構が免除認定者の職業や業績等について調査を行うときにはその調査に協力することに同意のうえ、特に優れた業績による返還免除を申請します。

フリガナ

氏 名

印

大 学 院 名										
課 程	☐ 修士（博士前期）課程			☐ 専門職学位課程			☐ 博士（博士後期）課程			
研究科名・専攻名							学 籍 番 号			
奨 学 生 番 号	6			0	6		生 年 月 日	昭 和 年 月 日	平 成	
現 住 所	〒 電話番号 ()									

■大学院における研究課題等

題 目										
概 要	以下の赤字による説明箇所は、削除の上作成して下さい。 この概要欄は、大学院における研究課題の概要説明となります。									

■教育研究活動等の業績

☐ 1	学位論文その他の研究論文	☐ 2	大学院設置基準第16条に定める特定の課題についての研究の成果（修士課程の修了要件に関する事項のため、博士（後期）課程は非該当）	☐ 3	大学院設置基準第16条の2に定める試験及び審査の結果（博士前期課程の修了要件に関する事項のため、博士（後期）課程は非該当）
☐ 4	（専攻分野に関連した）著書、データベースその他の著作物（1及び2に掲げるものを除く。）	☐ 5	発明	☐ 6	授業科目の成績
☐ 7	研究又は教育に係る補助業務の実績	☐ 8	（専攻分野に関連した）音楽、演劇、美術その他芸術の発表会における成績	☐ 9	（専攻分野に関連した）スポーツの競技会における成績
☐ 10	（専攻分野に関連した）ボランティア活動その他の社会貢献活動の実績（公益の増進に寄与した研究業績）				

記入の際は裏面記載の【記入上の注意】を参照。

論文・著作及び受賞については、それぞれ作成又は受賞の年月日を記入すること。
また、発表・学会誌等は、その名称・巻・号等を記載すること。

- 例1) 1. ○○学会誌○号掲載(【資料1】タイトル・号(巻)、掲載ページ等(氏名の確認できる箇所))
例2) 修士課程在籍時には、○○の研究を行い国内学会では○○学会のポスター発表において○○賞を受賞した。
(平成○年○月○日:資料1)また、学内のTAに採用され、○○概論の補助者として系統別の資料を作成し
授業で使ったところ、学生の理解度が飛躍的に向上した(資料2)

- ・要旨の書き方は、箇条書き又は文書方式のどちらでも構いませんが、書き方を工夫して下さい。
論文掲載等は、権威のある学術誌に掲載(発表)された事実だけで業績と認められますが、TA・ボランティア等は採用された事実や活動した事実だけでは業績として何が優れているのか判断できない場合がありますので、どのような点が優れているのかを記載して下さい。
なお、業績が優れているかどうかは自己判断です。特に文系の方は自信過剰にならないければ、業績が書けなくなる場合がありますので、私の業績として堂々と記載して下さい。
- ・文字サイズ、フォントの指定はありませんが、資料番号等は太字・下線等により資料確認が容易にして下さい。
- ・教育研究活動等の業績の「1」だけに○を入れ、関連した論文発表が3つあるような場合は、「特にすぐれた業績の要旨」に3つ記載して下さい。

【返還誓約書の提出について】

該当するいずれかの□を■にすること。(提出予定の場合は提出予定年月も記載)

- ☐ 提出済み ☐ 提出予定(令和 年 月 大学へ提出予定)

【口座振替(リレー口座)加入申込の手続きについて】

該当するいずれかの□を■にすること。(手続き予定の場合は予定年月も記載)

- ☐ 手続き済み ☐ 手続き予定(令和 年 月)

提出または手続きが確認できない場合、申請を受け付けません。

【記入上の注意】

1. 「課程」欄は、該当するいずれかの□を■にすること。
 2. 「現住所」は大学へ届け出ている住所を記入すること。貸与終了後に連絡先が変更となる場合、返還のてびき(23頁)を参照のうえ、必ず5月末までに機構に届け出ること。
 3. 「教育研究活動等の業績」欄は、該当する□を■にすること。ただし、専攻分野に関連した業績に限る。
 4. 教育研究活動等の業績について、「特に優れた業績の要旨」欄に要旨を800字程度で記載すること。
 5. 大学院の成績証明書、特に優れた業績であることを証明する資料及び業績一覧表を必ず添付すること。
(成績証明書は「教育研究活動等の業績」欄で「授業科目の成績」を選択していない場合でも提出が必要。)
- (注) これは様式1-1(裏面)です。印刷は、様式1-1表裏の両面刷りとしてください。

* 申請書の記入例（裏面） *

あくまでも例ですので、各自自由に記入してもらって構いません。ただし、

どの業績がどの添付書類なのか

分かるように提出してください。

■特に優れた業績の要旨

1, 学位論文 『〇〇〇…』

.....
.....

2, 学会発表 (国際・国内)

2-1, 〇〇〇.....

2-2, △△△.....

2-3, □□□.....

3, 論文掲載 (国際誌・国内誌)

3-1, 〇〇〇.....

3-2, △△△.....

3-3, □□□.....

4, 受賞歴

4-1, 〇〇〇.....

4-2, △△△.....

4-3, □□□.....

5, 授業科目の成績

6, 補助業務

7, 社会貢献活動

8, その他

■教育研究活動等の業績の内容	
1	学位論文の高い評価、関連した研究内容の学会での発表、学術雑誌への掲載又は投稿等、当該論文の内容が得に優れていると認められること
2	特定の課題についての研究の成果の審査及び試験の結果が得に優れていること。
3	専攻分野に関する基礎的素養や博士論文に係る研究の必要能力で、当該前期課程（修士）において修得すべきものについての審査の結果が教授会等で優れていると認められたもの
4	専攻分野に関連したデータベース、著書等が社会的に高い評価を受けるなどして評価される
5	特許・実用新案等の取得等
6	特に優秀な成績を挙げたと認められるもの
7	学内外での教育研究活動に大きく貢献し、優れた業績と認められるもの
8	専攻分野に関連した国内外での発表会等で高い評価を受けたもの
9	専攻分野に関連した競技会等で、優れた結果を収めたもの
10	専攻分野に関連したボランティア等が社会的に高い評価を受ける等、公益の増進に寄与し

業績として記載する場合には、それを証明する資料が必須です。証明する資料がない場合には業績記載不可です。

添付書類の例

学会誌等掲載	表紙、目次、掲載箇所（タイトル、氏名等の確認できる箇所）等（論文全体をコピーする必要はありません）
学会発表	冊子等から学会名、氏名、タイトル等が確認できる資料
ポスター発表（受賞）	賞状、学会名、氏名タイトル等が確認できる資料
特許	特許登録、発明者等の事実を確認できる資料
授業の成績	優秀である根拠を記した資料（Aが全体の〇％等）
TA, RA	採用通知等雇用の事実を証明する資料
	TA, RAとしての顕著な業績を証明する資料
TA, RAは単に採用された事実だけでは業績となりません。TA等として何をして何が業績なのかを教員等に証明してもらう必要があります。	
芸術関係	発表会等のパンフレット等（氏名等が確認できる資料）、写真
	添付できる資料は紙媒体のみであり、CD, DVD等は不可です
スポーツ関係	専攻分野に関連している必要有（賞状、記録等）
ボランティア	ボランティア参加の事実として第三者の証明が必要

ボランティア、TA/RA等については自己申告のみでは不可となりますので、業績として証明するために評価者の証明が必要となります。（評価者は教員、ボランティア団体代表等の合理的な第三者）

また、評価者の証明があれば内容だけでなく、長期間継続した活動という評価等も考えられますので、どのような視点により優れた業績とし、どのような証明が提出できるかにより、業績としての記載の有無を検討してください。

なお、業績は質と量を総合的に判断することとなりますので、業績を数多く記載することが必ずしも有利となるものではありません。